

食品等流通合理化の先進事例① 食品等流通合理化計画の認定（株式会社クラハシ）

食品等流通合理化事業の内容：流通の効率化・品質管理及び衛生管理の高度化・情報技術その他の技術の利用
食品等流通合理化計画の認定：2019年3月（支援内容：A-FIVEによる出資）
実施主体：株式会社クラハシ（広島県福山地方卸売市場の水産物卸売業者）
事業実施期間：2019年4月～2024年3月（5年間）

①活魚の備蓄・効率配送プラットフォーム構築事業



集荷後、低塩分飼育水を用いた水槽で備蓄し、魚体の活性化や生存力の向上を実現。

CO2麻酔コンテナで輸送し、身焼け防止や長距離輸送を実現するとともに、収容効率を最大3倍向上。

IOTやセンシング技術により、輸送途中の酸素濃度管理等のトレース管理・情報共有（実用化後導入）

【共用】
自社だけでなく、中国四国地域の卸売業者や漁協、量販店・外食にもプラットフォームを提供し利用料を徴収

【効果】
➢ 備蓄による供給量と魚価の安定 ➢ 商品の高付加価値化、遠方への販路拡大 ➢ 活魚輸送のコスト低減

②鮮魚仕分けセンターのプラットフォーム化

- 福山地方卸売市場の隣接地に閉鎖型、多温度帯管理が可能な仕分け場を整備。
- 自社だけでなく、量販店や地場物流業者の仕分け場としても共同利用。
- RFIDを活用した入出庫管理システムを導入し、入荷、検品、出荷等の工程を効率化。

③高付加価値商品の効率的陸上養殖事業

- 福山大学と連携し、市場価値の高い20cm以上のテッポウギスを沖縄県伊平屋島で陸上養殖。
- 水温、餌、酸素量等を一元管理する設備環境保存管理システムを導入し、養殖指導と出荷管理を効率化。（通常2～3年のところ1年で出荷）
- 他地域の漁協にも導入し利用料を徴収。